

【活動報告】2024年12月8-9日

能登半島輪島市の視察と復旧支援を行いました



一般社団法人 災害時緊急支援プラットフォーム(代表理事:吉田浩一郎、株式会社クラウドワークス代表取締役社長CEO、以下PEAD)は、2024年12月8日から9日にかけて、能登半島輪島市の視察および復旧支援活動を実施しました。

視察に際し、現地で支援活動を行っている一般社団法人ピースポート災害支援センター(PBV)の皆様にご案内いただき、地域の現状や復興の取り組みについてお話を伺いました。

■ 12月8日のヒアリングと視察場所

1. NOTOMORI(能登官民連携復興センター)
2. 輪島市災害現場視察(町野地区・ともやスーパー)
3. 輪島市役所
4. まちの湯
5. 御陣乗太鼓発祥の地
6. 白米千枚田
7. 輪島朝市
8. 輪島市内避難所(河原田小学校)

■ 輪島市の現状

震災後の状況

- ・水害や土石流の影響で、一部地域が孤立状態にある。
- ・住民は元の場所に戻りたいとの声が多く、地域への愛着が復興の鍵となっている。

復旧活動の進捗

- ・老人ホームの復旧やインフラ整備が進行中だが、完了には数年を要する見込み。
- ・ボランティアの支援が住民の回復に大きく貢献している。

人口流出と課題

- ・若者の流出が続き、新たな取り組みや経済活動の活性化が必要。

行政とボランティアの取り組み

- ・インフラ再建や仮設住宅の整備が課題。ボランティアの受け入れは改善傾向にある。

復興の教訓

- ・福島的事例に見るように、新産業の導入や柔軟な発想が地域活性化の鍵となる。

地域活性化の取り組み

- ・若い世代の存在が地域の活気を取り戻す鍵となっている。

■ 12月9日のヒアリングと復旧支援内容

輪島市災害助け合いセンター(ボランティアセンター)にて、輪島市の被害状況をヒアリングさせていただき、その後、土砂で埋もれてしまった老人ホームの復旧支援を行いました。

- ・土砂の掻き出し
- ・用水路の復旧

今回の活動が実現できたのは、皆様のご支援と現地の方々のご協力のおかげです。深く感謝申し上げます。被災地の断水の現状等を継続的にヒアリングし、1日も早い復旧に貢献できるよう努めてまいります。引き続き、皆様の温かいご支援をお願い申し上げます。

ボランティアの様子



状況と作業内容の確認をしている様子



前日に降った雨の通り道を作る様子



注意事項の確認後、ストレッチをしている様子



建物周りは人力が頼り、土砂が非常に重くなっている

視察の様子



能登復興の拠点として2024年11月2日にオープンしたNOTOMORI(左)
一般社団法人能登官民連携復興センター(右)の方から復興に向けての取り組みを伺う様子



地震と9月の能登豪雨でも被災したもとやスーパー。現在は、売り場面積を縮小し営業を再開し、炊き出しも行っている。



まちの湯：外からの様子(左)輪島市町野町民、能登半島の皆様に入っていたりするための湯となっている。



輪島朝市の様子



ひびが入った棚田を直すなど復興が進む千枚田



全壊した奥津姫神社



崩壊した鳥居は海が隆起し干し上がっている状態